

KODAK Color Control Patches  
© The Tiffen Company, 2000  
LICENSED PRODUCT

Blue 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 B 13 14 15 17 18 19  
Cyan 2 3 4 5 6  
Green 4 5 6  
Yellow 8 9  
Red 10 11  
Magenta 12 13  
White 14 15  
3/Color 17 18  
Black 19

山州名跡志

自松崎  
至杉坂小野  
六

ル 4  
2834  
6







州名跡志卷之六目錄

愛宕郡

松崎

僧都山

月輪瀧

新宮

小塚

小野橋

妙見社

經塚

長谷河同山

大谷

杉谷

經塚

櫻井里

御所内

華園

中村

時尾

岩藏

本涌寺堂

妙泉寺

數珠塚

木行坂

山鼻

御所谷

長谷

八鹽丘

龜山

稻荷社

日輪瀧

御輿塚

御所谷

理即院

辨財天社

八幡宮

御所谷

石坐明神社



經塚	紫雲嶽	護王神社	御菩薩池	八幡宮	經塚	立田社	藥王坂	二瀬
大雲寺堂	紫雲洞	無目佛	一言主社	大豆塚	幡枝	御所谷	野中	福惜堂
智辨水	新羅神社	万年岡	不二房	柘塚	圓通寺堂	市原	辨財天社	靜原
智辨塔	八所神社	福善寺社	野中村	地藏堂	圓光院塔	篠塚	神明宮	普陀洛寺
								年名山莊
								螢石

落合河	東光房	阿彌陀堂	關加井	護法神社	僧正谷	牛市社	龍王瀧	鈴市社	定峯寺堂	以繁畧	藏中
鞍馬	地藏堂	佛殿	藥師堂	如法塚	木船	鈴鹿社	奧社	日吉社	賀茂	齋院	
鞍馬寺	阿彌陀堂	進士間	觀音院	左義長谷	木船社	經所	御船	御手洗河	神山	有栖河	
淚瀧	九折	塔	八所神社	御所壇	河尾社	結神	吸蓐社	大悲山	賀茂社	片岡山	



片岡社

御手洗河

御生山

御生野

臥拜

流水社

同社

車坂

滿樹峠

雲畑

牛若丸宅地

惟喬般若

小野炭竈

岩屋

金峯寺堂

奧堂

天神宮

香水

護摩洞

己上愛宕郡

葛野郡

小野

棧敷嶽

厩

惟喬社

同塔

山森

二子塚

須美社

若綠松

御所内

正傳寺堂

妙見堂

鐘伐山

石門

總門所堂

大門

神光院

帝釋天

見苦野

栗栖野

藥師山

氷室

鷹峯

法華學室

白馬池

光悅寺

千束

菩提瀧

長坂

杉坂

道風社

篁社

冠石

落葉宮

櫻本寺

後冷泉院塔

還幸橋

山州名跡志卷之六目錄終



*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

山州名跡志卷之六

瑜伽林隱士 如是相白慧 撰

愛宕郡

松崎 在下賀茂北十四五町 本里東西二分 東松崎

西松崎トイフ 詠倭歌

*[Small vertical text, possibly a collection name or author note]*

夫木集 雲谷 云同所北谷 往昔此山蕃々トシテ幽ニ此故

ニ氷室アリ 接ニ氷室 仁德帝ノ御宇額田皇子 夏日山中ニ

狩シテ深谷ノ氷ヲ得テ 帝ニ奉敬シテ始ル 昔丹波山城

所々ニアツテ獻ス 其賤納スコトハ 淺谷ヲ選テ極寒ノ氷ヲ



收ルナリ。今此所ヲ丈谷ト称スルハ其氷室ヲ守ル老翁ニ寄テ  
名トナス。古其室ヲ架エタル材木土中ニアツテ。近年掘出ト  
イフ 當所氷室 詠和歌

堀河百首 夏六月之涼しきをり松崎の氷室のまじりぬ

六首番身合 松崎の氷室のまじりぬのまじりぬのまじりぬ

松崎山本涌寺 在同所東山腹 宗旨法華宗屬

洛中立本寺 佛堂 南向 額本涌寺 横額 尾形獨慎筆

開基 教藏院日生 此則立本寺十世播州人也父六

赤松之家族鳥居氏十一歳ニシテ立本寺八世日經

上人ヲ師トシテ出家ス於三宗博覽ノ譽アリ天正二年

此所ヲ開テ當宗ノ學室トナス今ニ至テ能化住職ス諸

方ノ學徒無斷

○稻荷社 在佛殿東 社 西向 昔山門ノ末流

實眼僧都靈夢ヲ感得シテ所勸請也

○僧都山 同所後山別称也實眼僧都苦修勤行人

地謂也

○杉溪 在同山

○松崎山妙泉寺 在同西村山下 宗旨本寺同上

堂 南向 開基 日像上人 時朗上人 當寺始ハ

天台歡喜寺ト號シテ山門ノ末院ニテ安觀音像始號

松崎寺然ニ法華宗トナル事ハ弘安ノ比實眼僧都ト云

人此寺ニ住持ス其比日像上人法華宗弘通ノタメ洛



中ニ出テ說法セリ。或時實眼夢ミラウ。白狐ニ乘タル老翁來テ告云汝明日ヨリ洛ニ出ナバ日輪ノ像ヲ可拜ト覺テ後奇異ヲ生ズ依テ洛ニ出ニ果シテ日像法師三條過ニ於テ弘通說法セルニ逢タリ實眼即像ノ名ヲ聞テ彼告夢ヲサトル自是聽聞ノ日ヲ重テ遂ニ我宗ヲ改テ日像ノ義ニ伏シ授法ス然ノ日像ヲ此所ニ招テ村ノ男女ヲ集テ彼說法ヲ聽シム像於此說法セルコト三日也村民又歸伏シ舊宗ヲ改ム即日像ヲ以テ當寺ノ開祖トナシ一村皆一宗ニシテ他宗ヲ不交シテ于今至レリ日像於此所書セル法華曼荼羅今猶此寺ニアリ每歲七月十五六日夜村ノ老若堂ノ前ニシテ法華ノ題目ニ節ヲツケテ踊ラナス

此故ニ當寺ノ堂ヲ踊堂トイフ

○日輪瀧 ○月輪瀧 古當寺東山ヨリ落ル今僅アリ

○經塚 ○數珠塚 ○御輿塚 在同山上

一村改宗ノ時初所持經數珠及氏神ノ神輿ヲ築藏

○新宮 在妙泉寺西 社 南向 鳥居 同木柱 拜殿 同 所祭法華一乘ノ守護大比叡神改宗ノ後

華經一部并日像ノ曼荼羅ヲ以テ神體トナス土人

為産沙神也 ○櫻井里 或書ニ松崎ニアリト云 松崎東西一村ノ外 無別名古老云櫻井トイフハ村ノ西北岩藏ニ到ル坂ノ



前。右ノ路傍ニ山神ト號ノ杜アリ。其西ニ少キ淺井アリ。

是櫻井ノ跡也ト云

櫻井百首 凡そを以て春水とて成りたり。或はこれ櫻井也。  
夫木集 花はさきとて春水の名はさして木をさしてはく櫻井の也。 為家 顯寺

右之和歌暫載之。櫻井里ハ當所ノ舊號ナル歟。但別處

ナル歟。不決

○木列坂 櫻井西北ノ坂也。是ヨリ石藏并御菩薩池等ニ

到ル。今狐坂トイフハ誤歟。古老說古此山繁茂セリ。此故ニ

實ハ木摺坂トイフト。然レ石藏大雲寺境界證文古記ニ西

限木列坂ノ文アリ。此坂ヲイフ。今猶此坂ノ北ヨリ石藏領也

△御所谷 在越右坂東方入五六町許良 昔官家

ノ別莊アリト云フ

△小塚 在松崎西二町許畠中 傳云古山門ノ衆徒

於此所討死ス其髑髏ヲ納ム。其僧侏儒ナルヲ以テ小塚ト

稱スト。一説ニ王塚トイフハ土人ノ片言ナリ

△御所内 在松崎村西地字也不詳

○山端 地名 在松崎東北有民家此所松崎山ノ東ノ

嶺ナリ

○理即院 在同所西方東向 小堂 東向 本尊

地藏菩薩 尺坐像四 作惠心 宗旨淨土 一説始無雲母寺云

○小野橋 小野畷 在山鼻北渡南北芝橋是也

是ヨリ北方ハ花園長谷等ニ到ルナリ。畷ハ北ノ橋爪ヲ西



二到ル道也。其西ハ木行坂ノ北ニ出ル。或説云石藏ノ小野  
秋津トヨスルハ。此所ナルベシト云。如前云小野トイフ所。當  
國所々ニテリ。今此邊ヲ小野橋。小野畷トイヒ。又石藏ニ  
近シ。又井蛙抄云秋津ノ小野ハ大和。秋津野ハ紀伊國石  
藏ノ小野ノ秋津ハ山城國ト云

雅成

名寄  
名寄乃小野ノ立出ノ跡也。秋津ノ小野ハ此所也。云々

後九條

花園 村ノ名 在小野橋北十二三町ニ 花園ノ名ハ古左

大臣夏野公ノ別莊ニヨルナリ。其地初ハ今ノ妙心寺ノ地  
是也。彼人於其所諸花ヲ愛セルヲ以花園左大臣ト稱ス。  
然テ人皇九十四代ノ帝彼地ヲ好取玉ヒテ。其裔孫良枝

ニ今此地ヲ賜ル。仍テ彼別莊ヲ此地ニ移故ニ此號ナリ  
上皇又彼地ニテ群花ヲ愛シ玉フ故 上皇ノ御稱號ヲ  
花園院也。又萩原院也。又右ノ橋ヨリ花園ニ到ル道  
ノ右田中ニ有小山。其麓北向ニ鳥居アリ。此所ハ長谷村ハ播  
ノ御旅所ナリ

○御所谷 在同所北 向北入。是則良枝山莊地也。

今為山田有居所跡。此號アル土人ノ尊號也。

○辨財天社 在同所北山下 社南向 例祭 九月九日

○妙見社 在同所民居間 地主神也

中村 在花園長谷中間

○梅宮 在同所 小祠 所祭不詳。自此到長谷石藏



中間有小祠神傳不詳

長谷地名 在中村北 詠和歌

六帖 長谷とあるものせよ山を昔はよみ安まるといふ

○八幡宮 在同所東山下 鳥居西向 拜殿南向

宮同 此邊第一ノ大架也 鎮在傳云惟仁親王勸

請ト 例祭 八月十五日 土人為產沙神有神

輿一基祭日於一二鳥居間土人乘走馬ナリ

○經塚 在本殿傍西北 傳云古小石面ニ書法花

經所收也上ニ妙法蓮華經ヲ彫石塔婆アリ土人云是

法華宗日像上人ノ築ル處即其筆跡也ト按此義非

ナラニ歟夫於當宗法花ノ首題ヲ書スルニ上ニ南無ノ字

ヲ置也此石無其義亦當宗ノ上人ニ尋之日像傳中ニ所  
彫ナレトイフ

○時尾 云ハ幡宮北岡上 其中南方ニ高キ所アリ

是ヲ號ク古此邊ハ三井ノ別院ノ地也此所ニ鐘樓ヲ構テ

時ヲツグ又亂世ニ相圖ノ鐘ヲナラセシト云土人トクノウ

ト云フハ誤也

○ハ鹽岡 鹽或作入 時尾ノツゞキ北エ互タル岡是也岡

山ノ別稱也古此所ニ數本ノ楓アツテ秋ノ末紅葉スルコト紅

ヲモツテ漆ニ等シ仍テ此號アリト今ハ北ノ尾崎ニ東ノ山

ト向タル溪アリ此所ニ楓少々アレナリ

新勅撰集 山州名跡志卷六 後永徳



源と八塩是れ如きは公をさへも流るるなり

刑部注補

○陰山社 在八幡宮北西四町許 社南向 例祭

九月九日 社記未考

○牛王社 在同所北二町許 社北向

○御所谷 又朗詠谷 在八鹽岡東北山 此所ニ古大

納言公任卿ノ幽栖アリ。土人朗詠石トイフ。於此和漢

朗詠集ヲ撰スト。其所ハ溪ノ中ヲ北エ入り登ルコト十町餘

也。又同所四五町許下ニ堂舎ノ跡アリ。傳云公任卿出

家ニテ寺トナセルト。又其上有平地是ヲ佛光谷トイフ

昔佛光菴ト號ス僧坊アリト云フ

千載集

前大納言公任長吉ノ位付々々此風を説く

きりぬのわいぬはつりぬ 定規

右の志板られ風小福是り一と谷の所なりと志公の言

返一 云何

吾風の身かむ毎ま右の志本志りと感え思ひあつれ

●二品法親王覺助山莊 舊地不詳

風雅集 二品法親王覺助長月の末より長谷此山莊に在り

~~~~~ぬの枝と折てなりなるに此一枝の法本~~~~

~~~~~と折てなりなるに此一枝の法本~~~~ 伏見院漸敷

又源記中と此如葉乃一枝なり折り志西人の信さうと云

覺助親王號寺長吏聖護院 後嵯峨院皇子

○長谷河并山 共詠和歌



名寄 山州後醍醐天皇 八塩凍くろくろく多くと長谷河より出くろく  
新撰六帖 信実 西行  
みまろくろく志長八塩ハ敷くろく長谷河よりわろく物くろく

○河 同所東北ノ溪ヲ流テ。於南西ニ折テ幡枝ニ流ル  
岩藏 或ハ岩倉或ハ石座 在長谷西ニ 此所以太近和歌

ニ岩藏ヤ八塩ト詠ス。號岩藏在此所里中石座明神。  
社訓石座。又天子ノ詔トシテ。王城ノ四方ニ經王ヲ納シム。其

所右北ナリ。其地ヲ號岩藏。故人和歌詠里山。  
拾遺集 新撰集 本皇極宣  
なすりハるる山ノ方代とくはたすくはつまんをさふ

○龜山 木行坂ヲ越テ石藏ニ到ル道東西ニ二ノ岡アリ。何  
モ南北ニ長シ。其形龜ニ類ス。向南向北形アリ。仍テ出入ノ

龜ト稱ス。出ハ右方南北二町許。入ハ左方南北三町餘。又  
同路傍北ヨリ流ル。河是長谷河也。

○石座明神社 在同所西南山下。鳥居東向所祭  
以巖為鎮在所。神傳不詳。舊記云。天神所籠之

窟也。神社記

○經墳 在石座東人家西竹林中。是稱北岩藏經  
墳也。

○岩藏山大雲寺 院號實相院 在里西北山下。宗旨

天台 法親王門主御住持 法流園城寺流義

堂 南向 額大雲寺 堅額 佐理卿筆 本尊聖觀世  
音 立像長五尺七寸 作行基 開基智辨僧正 傳出釋實



智辨ハ謚號元ノ名餘慶ト號ス。抑當寺ハ人王六十四代  
圓融院ノ御願也。傳云此寺草創ノ初洛北ノ天ニ且暮ニ必  
紫雲ノ聳ル所アリ。衆人コレヲ無不怪依之。勅使ヲ遣テ見  
セシメ玉フ處ニ當寺後山峯ナリ。勅使奇異ノ思ヲナス。忽然ト  
シテ白髮ノ老尼現ジテ告云。此所ハ觀世音菩薩降臨ノ  
靈地也。又使ヲ勸テ山上ニ到ルニ其所異香四方ニ薰ミ。  
寂靜タル靈地ナリ。使即窺ミル處ニ忽然トシテ管絃ノ音  
調ヲナス。漸スルニ及テ聖衆集會シテ音樂ヲ奏ス。其中ニ  
ヲイテ。勿心觀世音菩薩ノ光明赫々タル尊體ヲ拜ス。依  
之此靈地ニ伽藍ヲ建立シ玉ヒテ。行基菩薩和州長谷寺  
ノ觀音ノ御素木第二ノ切ヲ以テ作ル處ノ像ヲ本尊ト

ナス。今ノ本尊是也。勅使ハ藏人頭從四位下右近衛中  
將兼修理大夫也。造營ノ奉行戸部納言文範卿也。其  
後勅願寺ト定ム。勅使日野權中納言敦忠卿也。又依  
詔佐理卿大雲寺ノ額ヲ筆ス。今堂ニカクル者是也。已上  
舊記  
意  
今堂六間四面。實相院義尊之御再興。本尊厨子  
東福門院之御寄進。  
同東厨子 安本尊摸像 近世之僧中正院日護  
所作  
○鐘樓 在堂東 後水尾院御再興  
○智辨水 關伽井 在堂西 智辨僧正自所設也。



傳云此下流園城寺ノ三井ニ通ス。彼僧正念珠ヲ截テ水ニ入ラレ、ニ三井ニ浮出ト云フ

○智辨塔 在同所西傍 立五輪石塔婆土人ノ片言ニ兒首ト云フ可笑 智辨ハ正曆二年閏二月十八日於當寺入寂

○紫雲嶽 云後山峯 ○紫雲洞 在同所

○新羅明神社 在堂乾方東向 以三井護法神智辨僧正所勸請也神傳見別卷

○八所明神社 在堂東 社南向 所祭 石座 新羅 八幡 賀茂 山王 春日 住吉 松尾

八上所長德三年四月十八日依石座明神靈託為勸

請也

○十二所明神社 在八所西 所祭上八所

勢平野木船稻荷

○護王神社 在八所社東 又同東方ニ舊宮ノ石

塔婆アリ。是寶篋印陀羅尼ヲ納也。土ノ瘡病ノ時此塔

ニ祈念スルニ。忽愈ル。右外所々有社略之

○無目佛 是土人ノ口稱ナリ。大雲寺大門ノ東方。橋

ノ西ノ路傍ノ角。東向ニ安置スル石佛ヲイフ。諺云昔件勅使向テ。正真ノ薩埵ノ音樂ヲ聽聞セル。因緣ヲ表シテ其

形ヲ真似比テ。毎年ノ政事トシ。陰陽師來テコレヲ勤ム。此所ヨリ兩目ヲ閉テ山上ニ到ルナリ。仍此名ヲナス。其事五十



○ 年前猶アリレテリ  
○ 萬年岡 在大雲寺門前北一町許左  
○ 岡 東福門院御遊覽ノ時假御所ヲ此所ニ建シメ三  
ルニ至テ號玉ヘリ

○ 福善寺森 在同岡内南 古此所ニ號福善寺寺アリ  
△ 鋤上水 在同岡南 名義未詳

○ 一言主社 在里北五町許 社西向 社記未考  
靈應ノ事人口ニアリ。今ノ社ハ 東福門院皇女女三宮  
御願也

● 石藏不二房 出太平記石藏同名ノ所當國三四所ニ  
アリ。不二房ノ居所何ノ所ナル歟未考。因名暫載此所

○ 文曰。藤房卿。不二房ト云フ僧ヲ戒師ニ請ジテ。遂ニ多年  
拜趨ノ儒冠ヲトイテ。十戒持律ノ法體ニ成玉ヒケリ。卷十  
宣房卿尋行テニレバ。サル人ハケサマテハ是ニ御座候ツルガ行  
脚ノ御志トテ。何地エヤ之御出候ト云テ。住捨タル菴室ヲ  
見玉ヘバ。ヤフレタル障子ノウヘニ 住スツルヤトヲウキ世ノ人トハ  
嵐ヤ庭ノ松ニコタヘン

○ 野中村 在岩藏村北 是ヨリ北ニ到ル山下ノ細道ヲ西  
ニ到。靜原ニ到ル。行程二十餘町也。又野中村ノ北山即  
岩藏ノ溪北ノ至極也  
○ 所載次下從御菩薩池至其北  
○ 御菩薩池 在幡枝南 名義未見實記或作油呂池



傳云。往昔此池。面ニ地藏菩薩現ズト。即同所村ノ中ニ六  
地藏ノ隨一ヲ安置ス。此故ニ稱スト。云。予未考。又云。此  
池ハ木船神ノ領スル處也。事ハ則彼社神祕義トイフ

○大豆塚

在池良畔。傳云。每歲節分ノ夜。日本國中  
ニウツ處ノ炒大豆ヲ鬼神取テ此所ニ納ルト。是則或社ノ本  
縁ニアリ。往古ハ塚上有小祠ト云フ

○柀塚

在大豆塚西二町許山下

傳不考

○地藏堂

在御菩薩池村人家間

小堂東向 本尊

地藏菩薩

尺立像七 作小野篁 平相國清盛ノ願ニ因

テ此所ニ安ス

地藏條下 見六

○檜峠

在同所北播枝南

○幡枝

地名

在御菩薩池村北 名義有一說當所ハ

幡宮勸請因緣故也。載別記

○大悲山圓通寺

在同所 宗旨禪 佛殿東向 額大悲圓通 橫

後水尾院御筆

本尊聖觀音 坐像三

作定朝 潮立日堂 北向

本尊准照觀音 坐像

唐作并西國順禮觀音

此地初ハ圓光院

文英尼公ノ宅地也。公ハ閑左大臣基任公ノ女也。寺ト

ナス時。妙心寺龍泉之祖。實性禪師ヲ為開山。後水尾院

御在位ノ時。御祈願寺トナシ至ヘリ。御震翰御衣等ノ賜

テ。為寺鎮也

○圓光院塔

在同所堂東

尼則寺。後構庵而居

延寶八年十一月十一日薨。七十二歲



○八幡宮 在同所良小山上 鳥居西向 拜殿南向

宮南向 所祭同石清水云 社記未考

△御所谷 在同所卯辰間 其義不詳

市原 在幡枝北

○篠塚 在幡枝北八町 從是市原領也此地云

市原野岩倉大雲寺領西界也彼寺境界之文西限

篠塚

○經塚 在同所路傍左傳云空也上人自書法花經

所納上總云此所ハ一原野中二瀨鞍馬木船ヨリ死葬

ノ地ナリ又路傍ノ東西ニ寺アリ其東ノ寺ノ庭ニ小野

小町四位少將ガ墓云稱スルアリ古老云近世ノ新説也

ト此寺ハ元來為墓守建立スル草菴也即寺ノ左右ニ古墳多シ今ハ寺號ヲ普陀洛寺ト號ス西方堂ノ地藏菩薩ハ深養父ガ本尊ト云但未見實記普陀洛寺ノ舊跡載決下

野中村 在市原村北

○粟穂辨財天 在野中村内路傍西 拜殿東向

社同 所祭辨財天安天女像作弘法号粟穂辨財

天傳云此天當地影向ノ初村ノ一耆宿ニ夢中ノ告

アリ美女忽然ト枕上ニ來テ云吾ハ是河上ニ棲辨財天

也家ハ西方ニアツテ心ハ東南ニ通フ鞍馬寺ノ毗沙門天

ト誓約アルヲ以テ居ヲ多門天ノ近隣ニシメテ鎮ニ王城ヲ護



ト欲ス此所ハ即福地ナリ。吾居スルニ堪タリ故ニ來ル吾ヲ留  
シスバ福榮ナント。覺テ後奇異ノ思ヲナシテ曉旦ニ及テ河ノ  
邊ニ出ルニ六寸ノ白蛇。粟ノ穂ニ坐シ玉ヘリ。一村相議シテ先  
假殿ニ移シ。其後社壇ヲ造ル。仍テ客人粟穂御前ト号ス。  
是則永享二年九月九日ノ夜也。靈驗益アラタナリ。傳記

○神明宮 在右社東 宮 西向

○立田社 在野中村内路傍西 鳥居 東向 小祠

傳未考土人為産沙神

△福惜毘沙門堂 在立田北路傍西向 近年改テ

称福富 諺ニ此多門天ハ福ヲ惜テ鞍馬寺ノ多門天ニ

參テ授歸ル輩ノ福ヲ此所ニテ奪留ラト此故ニ鞍馬寺

參詣ノ日ハ此所ノ東ノ方ヲ通ルト云フ。緣起未詳

○巷辻 在毘沙門堂北 自是北至鞍馬木船等右

至靜原次下所載云藥玉坂迄到右名所也

靜原 在巷十町餘 境地山間ニシテ南北ニ互リ人家

山ニアリ

新撰六帖 山ノ内行取と云ふは冬ノあせは終るまじ重

山家集 山ノ内行取と云ふは冬ノあせは終るまじ重

●普陀洛寺 古清原濃養父幽棲地也後ニ改テ寺トス

開基延果僧正 本尊千手觀世音 釋書及拾芥抄

舊地靜原北端ヨリ五町許寅ノ方ニ當ル山間也谷ヲ左ニ

入ルコト二町許土人此所ヲ云堂谷其山上古木森々タリ



是其堂跡也。大ナル岩アツテ。景色ヲナス。其地傍ニ古タル石塔婆一重アリ。土人曰。此四面土中ニ壺四ツアリト云。當寺荒廢ノ後。本尊散在シテ。奥州毛越寺ノ内。吉祥堂ノ本尊トナス由。東鑑ニ載。又平家物語。後白河上皇大原ノ女院ヲ訪フトテ。鞍馬通ニ此道ヲトヲリ玉ヒテ。普陀洛寺御覽ノ事ヲ載タリ。則此所ヨリ東ニ。其坂路アリ。見次。○平家物語卷十二。曰。法皇夜ヲコメテ。大原ノ奥ニ御幸ナル。忍ノ御幸成ケレバ。供奉ノ人々ニハ。徳大寺花山院土御門以下。公卿六人。殿上人八人。北面少少候ヒケリ。鞍馬ドリリノ御幸ナリケレバ。彼清原深養父ガ普陀洛寺。小野皇太后宮ノ舊跡。睿覽有テ。シヨリ御

輿ニメサレケル。下畧。○右ノ文ニ因レバ。小野皇后ノ御所。靜原ニ近カリシト見ユ。其所今不詳。按ニ普陀洛寺ヨリ大原ニ到ル。其中間ニ皇后ノ舊跡ヲ載タリ。然レハ大原郷内ニアル歟。靜原ト隔ルコト。東ノ坂ヲ限テ。其東大原郷也。小野ハ庄号ニシテ。大原ハ小野庄也。平家物語ノ文ニ。鞍馬通ト云フハ。鞍馬ヲ過テ往ニハアラス。京師ヨリ鞍馬路ニカツテ到ルヲ云フ也。路ノ體如上云。市原ヲ經テ。鞍馬エハ北ニ到リ。普陀洛寺エハ右ニ到ル也。

○藥玉坂。在普陀洛寺溪東。從靜原越大原坂也。土人ヤツコ坂。或ハヤコウ坂トイフ。土佐坊昌俊京ヨリ此所ニ逃來シ事。載盛衰記。昌俊ハ大原路ニカリ。龍華越ヲ



志三原 大原北在 北山ヲ差テ落ケルガ軍兵ニ手ニサレハ

前ナキ切テ延ヤラズ昌俊大原ヨリ藥王坂ヲヨエ鞍馬山ニ

逃籠ル卷四十六

小野皇太后宮舊跡 不詳暫載此所後人可有考

后宮諱觀子 後冷泉院ノ后宇治關白賴通公第三女采圖傳

續世継物語云之毛ハ後冷泉院乃女御ニテありて

之毛ハ後冷泉院乃女御ニテありて

之毛ハ後冷泉院乃女御ニテありて

之毛ハ後冷泉院乃女御ニテありて

之毛ハ後冷泉院乃女御ニテありて

之毛ハ後冷泉院乃女御ニテありて

る一さく。法住法人少くめさく。東がのきうえ一。後  
やうて出所ニモさく。面白さありぬ。何方えりむよべさ。小野の  
宮を后宮乃もとえむらぐやと傳られ多成。法住ニテなりて。  
後者ニテとらるのせさく。彼文えと務まのせて。かる事作り。  
とぞて一。法車ニテなりきゆく。法用さるべ一。とらるるんば。  
おれさぬお具さけふ。後ニテなりて。後ニテなり。  
いなるん。とらるるる。とらるる。とらるる。とらるる。とらるる。  
あふ。い。とらるる。とらるる。とらるる。とらるる。とらるる。  
る。とらるる。とらるる。とらるる。とらるる。とらるる。  
けぬ。とらるる。とらるる。とらるる。とらるる。とらるる。  
ホ一。とらるる。とらるる。とらるる。とらるる。とらるる。



















藤伊勢人 當寺緣起有違釋書傳

○本尊外堂內所安 四天王 普賢 不動 刀

八毘沙門安厨子

○堂外障東間二畫像ヲ繫ル 左鑑真 右峯延

鑑真姓千氏唐揚州江陽縣人也 聖武帝天平勝

寶六年四月來朝 帝愛信造伽藍令居弘律宗天

平寶字七年五月六日化

峯延東寺十禪師也一日望北山有紫雲延出寺向

北行尋雲起處至鞍馬寺日已暮敲燃焚木禪坐居

數日一夜女鬼來向火延起入堂後朽木中鬼逐至

怒目動脣延念毘沙門忽朽木自倒打殺鬼翌日大

中大夫藤伊勢人入山見延臥問曰師何人何故臥

乎對云我來此已五日而不食故臥耳大夫便洗糲

米飲白漿漸薦膳延語來此事及婦鬼死大夫便署

延為寺主夏五月延修護摩日中大蛇自北嶺來自

如電舌若火延誦毘沙門呪蛇俄自斬為段々三日

後大夫來見段蛇歸闕以聞敕發役夫五十人弃蛇

靜原山俗呼其地為大蟲峯延延喜中逝已上出釋

○進士間 云兩像安置間次 古檀越藤伊勢人

參籠座也

○塔 在堂左邊 本尊 釋迦佛 多寶佛 尺坐像二

作不考



○闕伽井 在堂後 源山下ヨリ出ヅ。鑑真和尚於

當山ニ蛇ヲ伏ス。其一蛇ヲ救テ命云。汝此恩ヲ知ハ。當山

ニ水ヲ出メ。令無間斷。遂ニ放之。然所現ノ木ナリ

○藥師堂 本堂西 異向 本尊 藥師佛 立像

作安阿弥

○觀音院 雙藥師堂 本尊 觀世音 四十二臂

作不考。藤伊勢人建立 釋書云。大夫以爲我欲安

觀音像。今只置天像。願未果乎。其夜夢童子年十五

許。告云。當知觀音多門名。異體同覺。後解疑。大夫後

日。又營一堂。安觀自在像。今寺西觀音院是也。出廿

○八所明神社 在同所西 所祭 賀茂 山王

木船 春日 稻荷 松尾 率河

○護法善神社 在本堂後山上 烏居 異向 社 同

○如法經塚 在當山境內。東西南北。峯并中央。已

上五所。法花妙典ヲ納ム。往昔慈覺大師。山門楞嚴

ノ杉洞ニテ修セラル。其義相ヲ寫ス處トイフ

○左義長谷 在向樓門 巽嶺 此事每歲六月十

九日夜。當寺法事也。六人ノ役僧。此所ニ上テ儀式アリ。

古ハ如正月。左義長竹ヲ立テ是ヲ燒タリ。中比ヨリ如松明

シテ燒ナリ。傳云。多門天ハ人道ノ衆生ニ授福誓アツテ。其福

ヲ満足シ玉ヘリ。然レ在衆生諸煩ニ遮レテ得ニ由ナリ。故ニ徒ニ

朽ヲ以テ燒亡玉フ也。其相ヲ真似比テ。衆生ニ令觀ト云。私云



大和國志貴山ニモ此天ノ燒玉フトテ土中ニ燒米アリト云  
其所ヲ米尾ト号テ堂ヨリ西南ノ岑ナリ

○御所壇 在本堂西山中二町許 其地平也傳

云往昔空也上人幼稚ノ時ハ言語餘事ナク啼玉フニモ

只阿彌陀阿彌陀ト宣リ且又靈告ニ仍テ文帝彼幼親王

ヲシテ此所ニ住シ又玉フ其殿アルヲ以テ此号アリト云空也

延喜帝親王也已上縁起意此記在

○僧正谷 在八所社西北十町餘 ○車坂 在

同路二町許 ○牛若背競石 在右路傍 自是

下坂 ○不動堂 在左方南向 本尊 作傳教

自是一町許ニシテ僧正谷ニ到ル ○太郎坊社 在

僧正谷南向 此所牛若丸劔術琢磨ノ所ナリ總ノ

此所岩洞尋常ニラス石面如截劔刀其中挑石陰石

據石足駄石礎石水入石等為号アリ

花鳥餘情云鞍馬ト貴布祿ノ中ニ僧正谷ニイフアリ

藥師佛不動尊靈驗ノ地ナリ

自僧正谷北有下右路到木船行程凡二十四

五町

木船 地名 有民居云木船村 木船又作貴船或作

貴布祿後三字兩部習合家書者歟上古記皆作木

船字義難言

玉出集 此中ハ少孫川ニモ少孫ノ岩波

家治











ト云フ也。舊記曰。昔天八重雲ヲ押分テ日向國襲高千穂ノ峯ニ天降セ玉ヒテ宮柱太シク立テ久シク留在其レヨリ大和國葛城ノ峯ニヤドリ玉ヒテ此ヨリ山城ノ岡田ノ鴨ニ移リシレ玉フ畧

山城國風土記云。賀茂建角身命娶丹波國神野伊可古夜姬生子名玉依子次曰玉依姬玉依姬遊於石川瀨見小川今賀茂川時丹塗矢自河上流下取來置之床邊忽成麗夫遂孕生子至成人祖父建角身命欲知其父造八尋屋豎八戸扉釀八醞酒而神集七日七夜遊樂謂其子曰汝飲此酒將杯與汝父其子即舉杯置矢前向矢穿屋覺而升於天乃因外祖

父之名号賀茂別雷神

神代系圖傳

○神山 神殿東山是也 別名二葉山 日蔭山

賀茂山 共詠和歌

新勅撰 賀茂重政 季經 神垣よかろ夢れニ祭山ひくせ神の湯をらから祭

○神殿 一鳥居 木柱 在里北向坤 二鳥居 同 在一鳥

居上 樓門南向左 四足門同在樓門內 神殿南向

假殿 在神殿右側 所祭神傳見次下

○攝社末社及經所神宮寺等

○橋本社 在樓門回廊西石橋北傍

○棚尾社 在四足門段階右



○杉尾社 在本殿傍坤四足門内

○若宮 在本殿東傍

○新宮 在若宮東

○山尾社 在新宮右傍

○土師尾社 在御札屋前此所四足門續東間也

○藤尾社 在新宮南

○諏訪社 在片岡社 共在本殿樓門外河東南方

片岡東諏訪南而橋殿次也

○片岡橋 在同社西

○澤田社 在訪諏巽

○岩本社 在澤田社坤

限子二葉山 相嶺山

○奈良社 在岩本南川南

○川尾社 在回廊良玉垣外

○太田社 在本殿東三四町

○神宮寺 在太田鳥居外右

○鎮守社 在太田社後

○百大夫社 在鎮守西

○白鬚社 在太田巽

○福德社 在太田南石橋坤

○鎮守社 在福德社巽

○神宮寺 在福德南

○山森社 在本殿西馬場西



○氏神社 在一鳥居坤

○聖神寺 在二鳥居西 門東向

○齋宮 在聖神寺北 四外築垣 門東向

殿舍廊車寄等

○經所 在橋本社西

○高倉橋 在橋本社北

○本殿 所祭 別雷皇太神 賀茂皇太神共

二十二社註式曰日向國仁天降坐須神於賀茂建

角身命止申須神倭磐吾彦天皇乃御前仁坐天大

和乃國葛木仁宿寸彼与利漸山背國岡太乃賀茂

仁遷幸山代川仁下坐天葛川止賀茂川止合處仁

立坐給比賀茂川乎見巡之天宜久狹久少也止云

止毛石川乃清也止天石川瀨見小川止号久川

上仁宮所於定給天北山乃麓仁住給利其時此所

乎賀茂止云也止

豐葦原卜定記云古仁八十万乃神達乎天高市仁

集給比神議仁議給天可遣神於尋出之奉利此國

陪鹿島仁坐寸武雷神香取仁坐寸齋主神止於下

之千早振惡神於悉皆伏世順陪奉天遂報申寸此

後建角身命國々於見巡之御座寸於是天鈿女命

磐樟船乎齋奉利尊於神代乃浦乃浪靜奈留磯未

天送利御座仍天天乃神与利賜之神寶乎以天此



國乃固止成世玉波牟止天北山乃麓仁應化之百  
王於守利玉布經津主武雷神母同此所仁垂跡之  
玉陪利

○別雷者賀茂山自然ノ称号レヨウガウ其麓ニ神影向ノ故ニ号  
乏也然ルヲ鳴雷イカサチノ神靈トナス非也

○別雷神号詠古歌

よれたのびんわらふあゝとくはまきととのりゆき

此倭歌御神詠載新古今集此神元天上ヨリ降  
臨アルニ如此詠じ玉ヘリ實ニ雷ノ神ナルニカク詠じ玉

十八不可見者歟

金葉集  
君とわが神といとくはまきととのりゆき  
賀茂  
重子

此別雷神トイフモ只字面ノトナヘニツイテイヘリ願ヲ

ソラニミテ玉ヘトハ諸願ノ趣ヲイチハヤク明白ニ利生

アレトノ義下ニ別雷トイハシタメ也神号ヲ別雷ト号シ

奉レハ申ヨリ旨趣ハテラレ見玉フベシトノ意歟

御鎮座神傳并ハ所之攝社末社神秘ト云神祇正宗

曰社家秘無申旨故難露顯ト云

○岩本社 ○橋本社 神祇拾遺云住吉和歌之

兩神也業平實方常拜件二社祈和歌之秀矣遂家

風成譽溢海内之故世人稱為兩神化現ト云私曰

徒然草ノ説ハ右ニ異ナリ 徒然草云賀茂乃岩橋本

也業平實方なり人れ常といひまづ人れはむむ



糸をりしに。老ら文月乃さうし。城よびとめて居たり。其  
実まいみくしに。にげれうはさるるに。とけまは。橋本の  
杉水乃をきんむと。そとけり。若あお高月をりて。花と  
泳し。あし。のやさし。人あ。う。左京と。境あひ。さ。ハ  
定本以社と。う。う。も。さ。あ。り。と。と。さ。ゆ。ま。

○棚尾社 撰集抄曰。そ。れ。う。と。ほ。う。は。つ。り。を。ん。き。れ  
あ。し。ひ。し。世。を。通。く。は。も。が。後。の。社。よ。ま。さ。り。成。を。さ。う。く  
あ。り。く。四。國。乃。る。え。仲。り。し。さ。り。又。ゆ。ら。ぬ。り。り。さ。し。  
仁安二年十月十日乃夜もあつて。幣はいつた。と。あ。り。さ。の  
社。志。り。と。あ。く。志。づ。く。し。法。持。身。を。り。初。こ。の。は。月。不。の。く  
あ。く。考。ゆ。り。も。終。さ。び。あ。り。れ。よ。お。と。り。く。信。を。ん。む。り。て。願。ひ

り。し。ま。ま。り。四。中。の。涙。を。か。り。さ。る。又。つ。と。と。あ。あ。る。ん。ハ。西。行。法。師

○片岡社

千載集

い。ん。と。と。と。れ。を。か。り。さ。り。し。と。き。然。々。を。り。れ。終。り。て

安永改平

●齋院 舊地馬場、西聖神寺北 門 東向 四外

築垣 殿廊車寄等圖ニ見エタリ 延喜式曰凡天皇

即位者定賀茂大神宮齋王簡内親王未嫁者卜定

若無内親王者依世次簡諸王女卜定云種々儀式等

○齋王 嵯峨帝、姫宮有智内親王ニ始ル 土御門院

已來斷絶

○本院 齋院別稱

●有栖川 今亡 古老曰其所今本殿ノ戊亥ノ間







ニ至テ下鴨神殿ノ東ヲ流レテ高野川ニ入ル也。舊記曰  
北ノ山ノ麓ヨリ。ニツノ小河流下リ。此所ニテ落アヘリ。此河  
波靜ニテ細ク狭クテ底清カリカハ御神是ヲ愛玉ヒテ石河  
瀬見小河トナシ宣テ御手ヲスギ玉フ故ニ御手洗河ト  
申也云

御集  
人公ニ及ビ川乃流き漱しと云ふれりと津和野

石河瀬見小河

新交集  
石川やせと此小川乃流き漱しと云ふれりと津和野

右歌判  
吾名抄云此新交集所記入るがら川やまるといふまじ  
ゆりあはれおふおまると後下河のいどおくたりありと云ふ  
れり  
たのくはれり新交集所記の判と云ふをゆめまるとあり

さく又わらふ免て飛脚法師は判せり  
何より判事くつく。石川瀬見を川といふと及びゆき  
但おしとつあたりがら川おどけりあはれり  
定むべしとてことをまじはれし不致願うあひらき  
此より流るくまはるるにまはるる。高野の瀬見は  
やせしとて。こころをいひ新交集はゆきと  
やせしとて。こころをいひ新交集はゆきと  
流すつとて。こころをいひ新交集はゆきと  
老のゆかりとあし侍り

○鴨河 鴨羽河 同河原 共詠倭歌







○滿樹峠 在車坂北半里

雲畑 在峠北一里餘 但自此北村里ノ總名也續テ

三村アリ畑三村ト云フ 中塚河 中畑 出谷 是

也南ノ端ヲ口畑ト号シ北ヲ奥畑ト云フ 夫此谷ヲ雲畑ト

云フハ往昔藥王菩薩出現ノ靈地ナル故也衆生ノ病苦ヲ

為救諸藥艸藥水ヲ生ズ仍テ東西ノ山上常ニ其藥花不

絶シテ句四方ニ薰ス仰テ山上ヲ見レバ宛モ諸色ノ雲ヲ生

ズルカ如シ是ヲ以テ雲畑ト号スル也菩薩降臨ノ地ハ此村

ノ北岩屋山是也

○牛若丸宅地 同所中塚川村ノ東南ノ山ヨリ越鞍

馬中間ニアリ 傳云義經此所ニ住メリト又有号鐘樓

松古木 古此所ニ有鐘樓ト云フ

○惟喬般若 在中畑内總堂 古此所ニ号九龍山高

雲寺寺アリテ安置ス是即惟喬親王ノ設玉ノ處ナリト大

般若經全部并同經說相畫圖絹地一軸アリ

○小野炭竈禁札 在右同所民家良谷 傳云上古

禁裏ヨリ立ラル禁札ノ地也ト於此所 禁裏ノ炭ヲ燒

シ也因テ世ニ小野炭ト称ス云 按ニ此所非小野庄号也

○鳥居 木柱 畑北往還道ノ中ニ立テ入其中ヲ行也

此鳥居ハ岩屋山金峯寺内天神宮鳥居也

○岩屋山金峯寺 在出谷村北 宗旨真言 樓門東

安金剛力士 額 岩屋山 豎額 筆者不詳 堂 向南



擊造在川

本尊 不動明王 立像五尺餘

作未考

○奧堂

在本堂東西向 本尊 不動 立像五尺餘

作天神

聖廟僧ニ化シ此所ニ來テ造立シ玉フ所也委縁起

○天神宮

在堂前左 宮 南向

抑當山ハ上古藥王薩埵出現ノ靈場也其後役優婆塞

開基ス又弘法大師籠テ為密場護摩修法ノ洞今尚アリ

○香水

堂後岩窟ヨリ涌出ス 藥王菩薩此水ヲ穿

出シテ諸藥ヲ灌洗シ玉ヘリ仍テ其香自然ニ薰ズ諸病者

是ヲ服スルニ無不愈雖末代此香水譽世ニ高シ又彼菩

薩仙人ニ化シテ諸藥ヲ調シ玉ヘル舊跡山上ニアリ

○護摩洞

在瀧上山腹西向

葛野郡

小野 所名

在岩屋北二十餘町 上小野 下小野 又

云上村 下村

總ジテ自此西北ニ雙テ 東河内 西

河内 上村

中村 下村 真弓 細河 杉坂

等ノ村アリ共ニ小野在內也 按ニ惟喬親王小野ニ籠居

ノ事伊勢物語ニ載ス其所ハ比叡坂本ノ小野ト云 又此所

ニモ其事アリ如左

○棧敷嶽

在岩屋北三十町餘東河内北 境地四

面山ニテ嶽其上ニ在リ是即惟喬親王眺望ノ高樓アリ

シト也此所晴天ニハ山城界及難波津等見ユ其上ニ池アリ

昔ヨリ此所ニシテ以ニ金土所造ノ種々ノ器物ヲ掘出ツ然



レ氏家ニ採納ス。忽怪異ノ事有テ。或惱乱シ或狂惑ス。故ニ  
此地ニ送返ス也。是即彼御所ニ所用物也ト。又云昔ヨリ於  
此所時雞鳴コトアリ。又同麓林ノ中ニ号ニ三本竹アリ。其  
太如杖。三本生テ每歳三本ノ筭ヲ生ズ。其長スルニ及ニテ始  
ノ二本自枯ル。是即親王ノ鞭ヲサレ玉ヘルガ生ル所也ト云フ  
●御廐 在同所 親王ノ馬ヲ飼ハル所也ト

○惟喬社 在右同村民家南 鳥居南向 拜殿 同

社 同 所祭 親王御靈也 土人為産沙神

例祭 九月十六日 古祭節ニ六神輿ヲ選幸シ土人

種々ノ形相ヲ盡シテ度リス。今断絶ス。神輿納同所安樂寺

○惟喬塔 在同所長福寺 立十二重石塔婆

○惟喬親王傳 文德天皇第一子。母從四位下靜

子。紀名虎女親王住小野。故號小野宮。貞觀十四年

出家法名素覺。同十五年二月廿日薨。二十六歳

所載次下。自車坂西南。西賀茂北界至南。蓋西

鴨總名有別郷。川上村 田尻 林 真珠

庵村 總門 大門 紫竹等也。自北 此所

自南順路ハ今宮ノ東ヨリ經紫竹至ル

○山森 在川上村。良鴨川傍。森周一町許。中有小

社。南向。所祭不考。鴨本宮屬社也。又森一ノ号浮田森

但古歌ニ詠ズル森ニハアラズ

△二子塚 在山森西南田隄 由来不詳。此名關東



ニ達スルニヤ。尋來ル者多ハ關東人也ト云フ。又件ノ塚ヨリ良鴨川ノ東ニ号婦夫石アリ。土人ノ説義アリト雖以難信用不記。

○須美社 在同所北端二町許南民家西ニ社東向

所祭未考 例祭 三月十日 此日紫野今宮ノ

ヤスライ花ノ祭ハ於當社先勤テ其後今宮ニ到ル也即當所

ノ土人は是ヲ勤ル也但此祭由縁實記不詳一説曰古高

雄山法華會ノ縁ヨリ起ルト云フ事アリ。西行法師ノ和

歌ニ高雄山アハレナリケルツトメ哉ヤスライ花ト鼓ツツ也夫木集

○若緑松 在同所真珠庵村東南ニ大古松是也其

本ニ有小祠所祭木船神也。古老説ニ此地古ハ百合艸

大臣ノ宅地也平日愛セル緑丸ト云フ鷹アリ。恒ニ此梢ニ遊

シトカヤ。此鷹ノ名譽世ノ諺ニ云フ處也。彼樹ハ枯ルトイヘトモ

後入植續テ為其号也

○御所内 云同所北田地字 傳云百合艸若宅ノ地ト

○吉祥山正傳寺 在同所西山下ニ宗旨禪門東

佛殿 同 本尊釋迦佛坐像 脇士 左普賢 右文殊

作不考 當寺開基東岩宏覺禪師 此僧普寧禪

師ニ嗣法ス。此所初メ普寧ノ開ク所ニシテ洛陽今出川ノ

邊ニ在リ。寧入唐ノ後弟子東岩ニ讓ル。岩ノ代移此所ニ

妙見堂 云正傳寺後山西北峯 土人片言ニメケシ

堂ト云フ。古此所ニ妙見菩薩ノ堂アリ。毎歳七月十五



日ノ夕、聖靈命ノ送火ヲ船ノ形ニ燈スハ此峯也。京師ノ男  
女爭テ見之ヲ

○鐘伐山 同麓ノ山也。件ノ火ヲ燈ス時。於此峯鐘ヲ敲テ  
念佛スルナリ

石門 地名

鐘伐山ノ南ニ續テ丘山アリ。其溪ヲ西ニ越ル。西  
麓ヲ云フ。此所古愛宕權現社。最初勸請ノ所ニテ。柱礎跡  
アリ。号ス石門ハ其所西面ニ南北ニ並テ。石ニツ有テ門ヲ構  
ルニ似タリ。仍テ号ル也。是則彼社ノ西門ノ所也。此所ノ順  
路ハ紫野ノ上紫竹ノ北ヲ行クコト七八町ニシテハ西也

總門 有民家云村名。真珠庵村ノ巽ノ村也。自  
此所石門本社ノ舊地ニ至テ。其間有八町許。古愛宕ノ總門

此所ニ在シトナリ

大門 有民家為村名。總門村ノ南ナリ。此所ニ愛宕

社ノ大門有シト云。總門南端ヨリ。大門北端ニ至ルニ行程

二町許

○神光院 在右同所。門南向。宗旨真言。屬醍醐

齋寺。當院安弘法自作像。每歲三月廿一日開帳。

△帝釋天 在同所。巽半町許。地名也。由来不詳。

石佛一體埋井アリ

○見苦野 云大門西野。此野ノ西ハ鷹峯ノ内藥師

山ニ至ル。一説ニ此號ハ土人ノ誤也。實ハ御栗栖野也。其故ハ  
古大内ノ時。寮御馬草ヲ生ス所也。仍テ御ノ字ヲナス。源氏



物語ニクルス野ノサウ近カラシ。御馬草ナンド。トクカハセト云  
フ。是也ト云。栗栖野又在勸修寺北。又云。右野ヨリ北  
至西鴨路傍。右ノ田間ニ在塚。是ヲ號西丘塚。又北有小  
塚。其地ヲ云内池。由來不考

●栗栖野寺 三代實錄曰。權律師法橋上人位宗  
殺豫造御願寺。在山城國愛宕郡栗栖野。堂舍顛覆  
佛像元在北山。高峯寺貞觀十三年大雨。水自然以  
大巖石塞其道路。行人不通。去高峯寺移立於栗栖  
野。

○藥師山 此山自紫竹北。自鷹峯良山也。有小堂  
安藥師佛。傳云。昔傳教ノ所開。後世破壞ニ及テ。彼本尊

他ノ有ト成シヲ。近年醫家野間氏此山ヲ求メ。又彼像ヲ  
得テ建堂安置ス。但吾未拜。○此所西方凡十町餘。其  
南ハ紫野。蓮臺野ノ堺六七町ニ及テ。其地ヲ云鷹峯也。但  
總名也。分テ峯ヲ云ハ。金櫛寺ノ後山ニ續タル峯是ナリ。  
諺云。古此山ノ林ニ鷹來テ。每歲雛ヲ生ス。是故ニ此号アリ  
ト。三代實錄ニハ。作高峯也。

冰室 地名 在紫竹北二十町餘 有民村為名 到  
此所南ニ有冰室坂。境方峻峨ニシテ四面山也。上古此所  
ニ有冰室 詠和歌

拾遺愚評 夏秋風ニぬきまを山ありふを冬を海と云ふハ  
千載集 一の氷室山乃方り海に此花の影あり日 夏家



下さぬおのふまのふたをうづらきくはるりあつて  
依仲云

如前云岩屋ノ北ヨリ今此邊及鷹峯ノ西北丹波ノ界ニ  
至テ皆小野ノ庄内也此故二件ノ歌此所詠小野冰室也  
鷹峯南云藥師山西及紫野北南北十町許東西七  
八町之總名也

○寂光山常照寺 在右同所丹波往還道北 寺門南向

宗旨法華 此所一宗了致流談所六所隨一ナリ

開基 寂照院日乾上人

○白馬池 在學室西谷 今滅ス傳云古有仙人此所ニ

住ス白馬ニ乘テ池中ニ往來ス仍テ号ルナリ十八丁餘其

○光悅寺 在同所丹波路傍南方東向 宗旨法華

此所本阿弥光悅所開也初号太虚庵林道春當菴  
ノ記ヲ作ル在羅山文集 堂南向 此所於佛前唱

法華題目不斷處也

○知足庵真淨堂 在堂南 法華常唱ノ道場也此

所頂妙寺住主日然興隆也其後深草山元政再興

千束 地名 云光悅寺西

鷹峯 在千束西北 此所西南ニ雙テ三峯アリ 第一

天峯 第二鷹峯 第三鷹峯 由来未考 鷹峯

今地ノ名トス

○菩提瀧 在第三峯戌亥二十町許路傍左 此路

ヲ中河谷ト云自瀧西北半里餘中河村アリ



長坂坂名

在鷹峯西北半里許。坂路行程二十町許。

此坂ヲ經テ北ハ丹波ニ到ル。但是ヲ北丹波ト云フ。彼國山國ニ出ツ。當國ノ内ハ小野東河内。西河内。真弓。細川。宮。辻等ノ民村ニ到ル。宮辻ハ丹波山城ノ堺也。長坂詠和歌六帖和歌。

○長坂野

在坂西北。於此所奉火葬。一條院。

百鍊鈔曰。一條院。寬弘八年六月二十二日崩奉。

杉坂坂名

在長坂北。其所左右ニ山重テ一徧ノ山路。

ナリ。此所古杉アリケルニヤ。今ハ稀也。民家左右ノ山下ニアリ。地ヲ云杉坂村。

○道風社

在同所。到北左山下。鳥居良向。拜殿巽向。

社巽向

号武宮。名義未考。所祭。小野道風。

靈神

社記未考。例祭。九月十四日。土人為。

産沙神

當社初勸請ノ地。是ヨリ巽方ニアリ。号元明神。

○道風傳

敏達天皇之後胤。從五位下。三議岑守。

孫筑前守葛絃子。正四位下。内藏頭。

○小野篁社

在東河内民居。坤二町許。社南向。

所祭

小野篁靈。社記未詳。土人為産沙神。

例祭

九月十六日。有神輿一基。

○篁傳

參議岑守男。左大辨。從二位。承和三年二月配流。隱岐國。同七年四月蒙勅許歸京。同八年。



閏四月任本位仁壽二年十二月廿二日薨五十歲

△冠石 在東河内中路傍形類冠傳云惟喬親王

ノ所号ナリト云

○落葉宮 在下村民居一町許鳥居南向拜殿同

社同所祭社記未考土人傳云柏木衛門が意

ヲ寄シ女ニ宮ノ靈ト按ニ是虛説ナリ彼源氏物語ハ寓

言ナルヲ不知哉土人為産沙神例祭九月十

五日有神輿一基古佛宇周備大架巍然

○櫻本寺 在同下村山腹今只有小堂安觀音大士而已

○後冷泉院御塔 記云後冷泉院治曆四年甲月

十九日讓位即日崩奉火葬櫻本寺藏御骨云或

說件寺此所御塔不詳但上村ノ内ニ有塚安古代

石塔是其所歟

○還幸橋 在下村名義不詳愚按光嚴院中比

赴南方正元年中歸洛アツテ丹波山國ニ入玉ヘリ其時

渡玉フ故ニ号之欵到山國此所順路也任後勘

右所載ノ北ニ西河内細河尾野尻等ノ村アリ尾野尻

ニ有尾野尻峠細河ノ北ニ号金花山山アリ尾野尻ノ西

北ニ當國丹波ノ堺アリ自是出彼國山國村已上山

城乾方究竟畢



